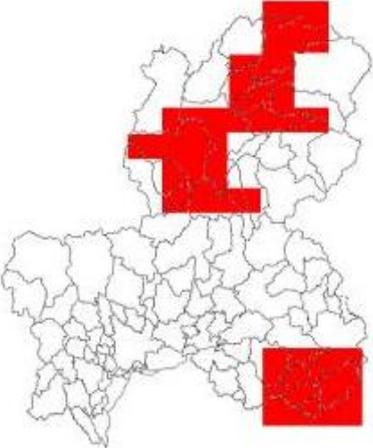


ナガミノツルキケマン		<i>Corydalis raddeana</i> Regel	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:準絶滅危惧)		ケシ科	
選定理由	山間部の湿地や人家周辺のやぶなどの開発により減少の傾向にある。	写真(岐阜県博物館) 標本 	
形態の特徴	水液が多く角張った茎を四方八方に伸ばして周りの植物に寄りかかる。葉は2-3回3出複葉で長い柄があり、小葉の裏面は白っぽい緑色。花期は8-10月、花色は濃い黄色で花が1列に5-20個つく。さく果は狭卵形で種子はほぼ1列に並ぶ。		
生態的特徴	山地の湿地、高茎草原、林縁、土質の河畔などに生育する2年草。		
分布状況	温帯:北海道・本州・四国・九州;朝鮮半島、台湾、中国東北部、シベリア東部に分布する。岐阜県では飛騨地方と美濃地方東部に見られる。		
減少要因	山地の湿地など生育地域の開発。		
保全対策	山地の湿地など生育環境の保全。		
特記事項	日本産のキケマン属植物は春に開花するが、ツルキケマンの仲間3種(ナガミノツルケマン/ツルケマン/チドリケマン)は秋に開花する。		
参考文献	日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類 平凡社(1982) 原色日本植物図鑑 中 保育社(1961) 週間朝日百科 植物の世界91 朝日新聞社(1996) レッドデータプラント 山と溪谷社(2003)		

文責者:三品和子